

ありがとうをつなぐ…

ワタミグループの環境活動

ワタミ環境宣言

美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく

- 地球で事業活動を営む企業の責任として、その存在ゆえに生じる環境負荷を少しでも小さくする。
～地球の邪魔をしない存在となる～
- 環境活動が経済活動であることを証明して、他の企業を啓発する。
- グループの成長に伴い
増え続ける国内外の従業員を介して「環境」に働きかける。
その一人ひとりが生活の中で、常に「環境」を意識し、
実質的に明日の地球の現実を変えていくための行動をとる。

ワタミグループ環境方針 (W-ECOビジョン2020)

“グループCO₂排出量を2020年までに50%削減” (08年度比、売上高当り)

ワタミグループは、ワタミ環境宣言2008の考え方にに基づき、W-ECOビジョン2020を環境方針として掲げます。このW-ECOビジョン2020達成のため、下記のとおり、3つのテーマに分けて環境活動を実施します。

1. 事業活動における環境負荷 (CO₂) を低減します。
 - 外食事業、介護事業、高齢者向け宅配事業で排出するCO₂を2020年度までに50%削減します。
2. 循環型社会構築のため、環境改善事業を強化します。
 - 安全・安心な循環型社会構築のため、有機野菜の生産量拡大を目指します。
 - 外食事業・食品製造事業による食品廃棄物(生ゴミ)のリサイクルに努めます。
 - 環境教育や森林保全に取り組む“ワタミの森”の活動を促進します。
3. グループ社員一人ひとりの環境意識を向上させ、日々の環境改善を推進します。
 - 社員・パート・アルバイトが生活で排出するCO₂を2020年度までに30%削減します。

ワタミ株式会社 代表取締役社長・COO 桑原 豊

地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。

WATAMI.

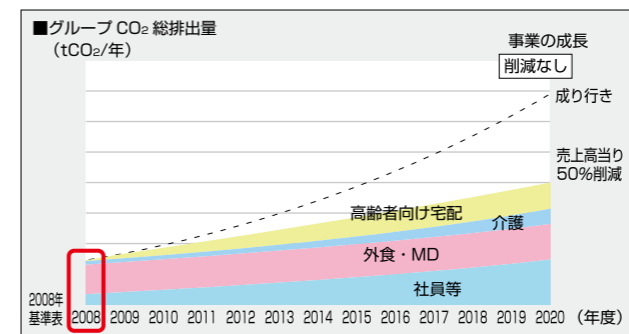
「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」環境貢献

ワタミグループでは、環境宣言「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」のもと、1999年の外食産業初のISO14001認証取得以来、様々な環境保全を行ってきました。(※詳しくは「環境とともに52ページ」をご覧ください)2009年10月、グループ内の取り組みを振り返りながら、未だに悪化し続ける地球環境を憂い、社会の模範となるべく、より高い目標を掲げ、新しい環境方針「W-ECOビジョン2020」(※1)を策定しました。
(※1)W-ECO:環境(エコロジー)と経済(エコノミー)を両立させることを目標としています。

“今まで”を強化し、 グループの新環境方針を策定

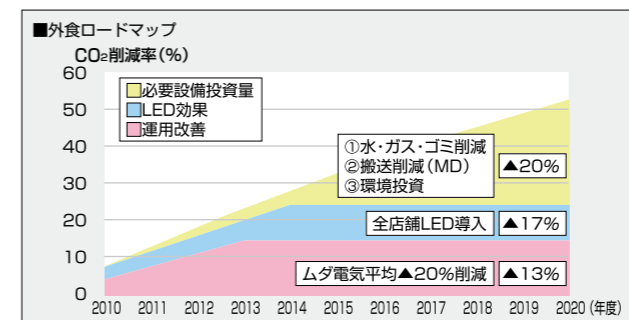
W-ECOビジョン2020“グループCO₂排出量を2020年に50%削減する”(08年度比、売上高当り)

「W-ECOビジョン2020」では、2020年までにグループ全体の環境負荷(CO₂、08年度比、売上高当り)を50%削減するという長期的な方針を掲げています。下図に示すように、CO₂排出量を50%減らすことによって、各事業のトップランナーとなりながら、事業が成長してもグループCO₂総排出量(※2)を可能な限り抑えることを意味しています。



この50%削減を目指し、ロードマップを作成しています。

- 第1段階: 日常のムダ電気を減らすことによって13%削減する。
- 第2段階: LED照明など投資回収が早い設備投資によって17%削減する。
- 第3段階: 風力や太陽光発電など投資回収が長い設備投資によって、20%削減する。



環境省より エコ・ファースト企業に認定



ワタミグループは、2010年5月31日、今までの環境への姿勢と先進的な活動が評価されるとともに、これからも業界のトップランナーとして走ることを期待され、環境大臣から環境先進企業として「エコ・ファースト企業」(※3)の認定を受けました。2008年4月のエコ・ファースト制度開始以降、国内のグループ全事業(外食、介護、高齢者向け宅配、農業、MD、環境・メンテナンス)での認定取得は初めてとなります。認定に際し、ワタミグループは地球環境保全活動をさらに推進していくための「エコ・ファーストの約束」(※詳しくは次のページをご覧ください)を宣言しています。

この「エコ・ファーストの約束」は、グループ環境方針W-ECOビジョン2020(2020年までの長期計画)を受けて、2012年までの具体的な目標を設定している中期計画となります。



環境省からのエコ・ファーストの認定証の授与

(※3)この「エコ・ファースト制度」は、環境保全に関する業界のトップランナー企業の行動をさらに促進していくため、企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策など自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度です。企業は認定基準を遵守することを条件に、「エコ・ファーストマーク」の使用が可能になります。

COLUMN

(※2)【環境コラム】なぜ環境方針をCO₂排出量削減に設定したか?

環境問題は、CO₂などの排出による温暖化の他、エネルギー枯渇、オゾン層破壊、森林破壊、土壌・水質・大気汚染、酸性雨など多岐にわたり、かつ様々に関連しシンプルな表現は困難と言われていきます。ワタミグループでは、お客さまやお取引業者様、社員、パート・アルバイトができる限り共有しやすい目標を掲げることを目的とし、環境負荷の象徴として“CO₂”を設定しました。ワタミグループでは、

各事業における主な3つの環境負荷をCO₂に換算し、排出量を合計しています。

- ①エネルギー起源=外食店舗・介護施設等で使用する電気やガスや水
- ②廃棄物起源=外食店舗・介護施設等から排出されるゴミ・廃油等
- ③輸送起源=食材や資材の調達、及びMDから外食店舗・介護施設等への配送に伴うガソリン・軽油等



エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

平成22年5月31日

環境大臣 **小沢 鋭仁** 殿

ワタミ株式会社 代表取締役社長 **桑原 豊**

ワタミ株式会社は、地球で事業活動（外食、食品製造・卸、介護、高齢者向け宅配、農業、環境・メンテナンス）を営む企業の社会的責務を踏まえ、法令順守を徹底するとともに、環境負荷の軽減を通じ積極的な社会貢献活動を促進するため、以下の取り組みを進めてまいります。

ワタミグループは、環境宣言2008「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」に基づき、環境方針 W-ECO ビジョン2020「グループ CO₂排出量を2020年までに50%削減（2008年度比、原単位・売上高当り）」の達成を目指します。

1 事業活動における環境負荷を低減します (CO₂削減)

- 2012年度までに次のCO₂削減目標を達成します。
 - ムダな電気の削減の促進やLED照明の新規店舗、および新築介護施設（ホーム）への導入などにより、外食（店舗）、介護、高齢者向け宅配事業でのCO₂排出量を2008年度比、原単位（売上高当り）で15%削減します。
 - 食品製造・卸事業での輸送によるCO₂排出量を2008年度比、原単位（売上高当り）で15%削減します。
 - 外食事業の既存店舗でのCO₂排出量を2008年度比、総量で15%削減します。
- 削減目標達成のため、全事業で認証を取得している環境ISO14001を強化し、日常の環境負荷低減に努めます。

2 循環型社会構築のため、環境改善事業を強化します (リサイクル率向上)

- 外食および食品製造・卸事業での食品廃棄物（生ゴミ）のリサイクルに努めます。
 - リサイクルループ（再生利用事業計画認定制度）を構築して、外食店舗や食品製造工場の生ゴミを堆肥化し、グループ会社の農場で活用します。（2012年度に東京近郊の200店舗（関東の店舗の約1/2）で実施）
 - リサイクルループ以外の地域でもリサイクルに努め、2012年度までに外食および食品製造・卸事業の合計の再生利用等実施率50%を達成します。
- リユース社会構築のため、リサイクルさせていた日本酒ビンのリユースの取り組みを促進します。（2012年度に関東、甲信越、東北地域の全店舗でリユースを実施）
- 安全・安心な循環型社会構築のため、化学肥料を使用しない有機野菜の圃場を2012年度に250haまで拡大をします。

3 グループ社員の環境意識を向上させ、日々の環境改善を推進します (社員の行動)

- 「エコカード」(環境家計簿)を活用することによって、グループ会社の社員の環境意識を向上させ、生活で排出するCO₂を2012年度に一人当たり10%削減（2008年度比）します。
- さらに社員の環境教育を促進し、パート・アルバイトを含めた生活で排出するCO₂を2020年度までに一人当たり30%削減（2008年度比）を目指します。

4 森林保全などの環境活動に取り組む地域やNPO活動を応援します

- 環境教育や森林保全に取り組むための「ワタミの森」の活動を促進します。
- 店舗や介護施設（ホーム）などで間伐材などのバイオマスを活用するとともに、NPOや地域の活動を応援し、森林保全に貢献します。
- 環境省・オフセット・クレジット（J-VET）制度を活用し、約90%の店舗でカーボンオフセット・ドリンクを導入し、森林保全に取り組む地域を応援します。

ワタミ株式会社は、上記の取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省に報告します。

地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。

WATAMI

ワタミの環境活動の目指すイメージ(持続可能な循環型社会の構築)

ワタミグループは、中期計画「エコ・ファーストの約束」を達成し、さらに長期計画である「W-ECOビジョン2020」を達成することにより、持続可能(サステナブル)な循環型社会の構築を目指しています。ワタミグループが展開する独自の6次産業モデルを活用することにより、材料・商品やエネルギーの動脈(行き)と、空容器や廃棄物などの静脈(戻り)がつながりを持つことによって、循環型社会の構築が可能になります。

■ワタミグループが展開する独自の6次産業モデル



「エコ・ファーストの約束」に記されている4つのテーマは、個別の環境活動ではなく、すべて、上記の循環型社会の構築につながっています。

エコ・ファースト テーマ1 事業活動での削減

ワタミグループが経営目的の達成を目指して事業活動を行うことにより、様々な環境負荷(CO₂、廃棄物、輸送エネルギーなど)が排出されます。その環境負荷を、可能な限り削減させる発生抑制を行うことにより、循環型社会に近づいていきます。

ワタミグループでは、各事業でのISO14001認証取得をはじめとした環境負荷削減に取り組んでいます。

エコ・ファースト テーマ2 環境改善事業の強化

ワタミグループでは、今までもワタミファームやワタミエコロジーなどにより、様々な環境改善事業に取り組んできました。有機野菜の栽培による「窒素循環」の促進や廃棄物の最適管理による静脈物流の効率化などを行うことにより、より循環型社会に近づきます。

ワタミグループでは、これからも、ワタミファームやワタミエコロジーの環境改善事業を一層強化していきます。

エコ・ファースト テーマ3 社員行動での削減

ワタミグループでは、環境活動を行ううえで、現場で働く社員、パート・アルバイトの環境意識の向上が最も大切であると考えています。従業員の意識が向上することにより、事業活動での省エネやゴミ分別が促進され、循環型社会に近づきます。

ワタミグループでは、全従業員に対し、日々の生活における環境に配慮した行動を心がけるよう働きかけを行っています。

エコ・ファースト テーマ4 環境保全活動の応援

ワタミグループでは、グループの環境教育や森林再生の可能性を模索するためにNPO法人「Return to Forest Life」を設立、「ワタミの森」を運営しています。

このような環境保全活動を広く行うことが、循環型社会の構築において重要であるという考えのもと、「ワタミの森」の活動促進や環境活動を実践している団体の皆様との協働や支援を積極的に行ってまいります。

■持続可能な循環型社会の構築



- 環境負荷低減
- LED照明の導入
 - エネルギーマネジメントシステム導入
 - ISO14001導入
 - エコホームの建設

ありがとうをつなぐ…

全社員ボランティア活動を目指して

ワタミグループでは、「全社員が年に1回はボランティアに参加する」を合言葉として、社員が自主的に参加しやすいように専属の担当者が、全国でのボランティア開催予定を業務改革会議などの各事業の会議体にて案内をしています。



お食事会風景

ワタミグループ社員一人ひとりが行う社会貢献

ワタミグループは、社会的使命（責任）を果たすためにも、「良き企業市民」として社会とともに生きる企業を目指し、グループをあげて社会貢献活動を実践していきます。ワタミグループでは、社会貢献活動やボランティア活動とは「何かをしてあげることではなく、何かをさせていただくことにより、学び・感動させていただき、その結果として自分自身が成長すること」だと考え、社員一人ひとりが、自発的・継続的に社会貢献活動を行うことを推奨しています。活動は、「グローバル&ローカル」を基本に、地球規模的視点で捉え、かつ地域密着型で実践、推進し、「できるところからコツコツ」という考えのもと、「無理をせず、確実に継続すること」を重視しています。

TOPICS

一人の新入社員の思いからはじまった「お食事会」

ワタミグループでは、1999年より毎年、ハンディキャップがあるなど社会参加の少ない方を店舗にご招待し、「お食事会を通じた交流会」を開催しています。

このお食事会は、ボランティア研修に参加した一人の新入社員の「目の不自由な子どもたちのために、点字のメニューをつくり、和民に来てもらい、楽しい思い出をつくってほしい」という提案からはじまりました。

「ぜひやりなさい。思うだけなら誰にでもできます。大切なことは、思いをカタチにすることです。」応援の言葉を受け、提案から3カ月後に、第1回目の「お食事会」が開催されました。

お昼過ぎ、目の不自由な子どもたちが、職員の方々に付き添われて次々にご来店。迎えたのは、新社員を中心とした二十数名のボランティアメンバーでした。「お飲み物をどうぞ」、「先生、ビールはいかがですか」。お店には、安全に過ごしていただけるよう多くの工夫をほどこし、メニューが読めない子どもたちのために、点字メ

ニューをつくりました。このことをきっかけとして、後に「和民」「坐・和民」「和み亭」の各店舗に点字メニューが設置されるようになります。

「ワタミのみなさんへ 先日は招待していただきありがとうございました。それからおみやげまでくださり、どうもありがとうございました。これからも元気でがんばってください」…この時のおみやげは、ある新入社員のアイデアから生まれました。彼女自身が知的障がい者の方々が働く作業所へボランティアで行った際に見つけた、何回も何回もやすりで磨いてつくられた「ひのきでできた木の動物たち」…この動物たちは、彼女の提案で、和み亭での販売がはじまりました。

「ボランティアで行ったのに、逆に自分が元気づけられた。だからお礼をしたかった」「それでもまだ、学ばせていただく方が大きかった」…活動開始以降、ワタミグループでは毎年、様々な施設の方をお招きし、全国の店舗でお食事会を開催しています。

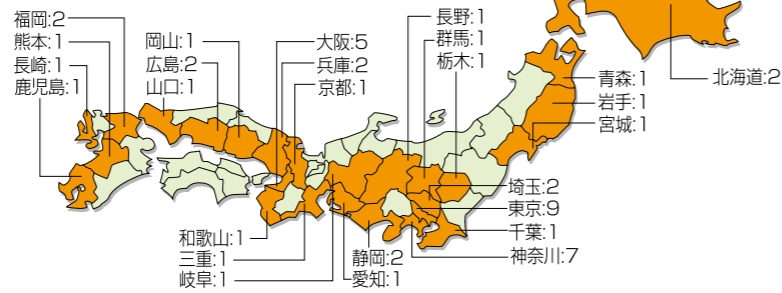


お食事会の開催

2009年度、ワタミではお食事会を50回行い、1,008名の方々をご招待し、875名の社員がボランティアとして参加しました。この活動を通して、サービスの原点であるホスピタリティを学び、一人ひとりが、人に優しい心を持ってやる機会をいただいています。(※)

(※) 海外でのボランティア活動に関しては、「お客さまとともに 29ページ 外食事業(海外)」をご覧ください。

■食事会の分布図(※数字は店舗数)



お食事会の様子(「坐・和民」六本木プラザ店でのお食事会開催の様子)

10:00 ~ 11:30 (お食事会の準備)



気持ちの良い空間で、過ごしていただけるようしっかりとフロアを清掃。歓迎の意をこめて、飾りつけもします。



キッチンでは、提供するお料理を準備。事前に施設様とアレルギーがないかなどの提供メニューの打ち合わせを行い、当日は、ワタミファームの有機野菜をたっぷり使ったサラダなど、和民自慢の料理をお出しています。

12:00 ~ お出迎え・お食事会開催



当日は、西麻布作業所の利用者様27名様と職員様計36名様をご招待。スタッフも席に交え、お食事会を開始。後半には、ビンゴゲームも開催し、大盛り上がりでした。

施設バザーへの参加

ワタミグループの社会貢献活動が本格的に始まったのは、1995年5月の施設バザーへの屋台出店からです。

これらのバザーには継続的に参加しており、2009年度は16回、149名の社員が参加し、合計502千円を主催団体様に寄付させていただきました。

2010年は16回の屋台の出店での参加を予定しています。また岸和田盈進会病院においても、患者様・ご家族様・近隣の方々・病院の職員の方々が参加するバザーに参加しており、2009年度は8名の社員が参加しました。



学校法人 旭学園(特別支援学校)様の60周年式典



社会福祉法人 なごみ福祉会 多摩川あゆ工房様「あつまつり」



社会福祉法人 東京都知的障害者育成会 世田谷区立砧工房様「蔵まつり」

全国の施設様から多数の御礼のお言葉

ボランティア活動を通して関わらせていただいた施設の方から、お礼のお手紙や感謝状をはじめ、たくさんの「ありがとう」のお言葉をいただきました。

6月24日の本町店の食事会は、心のこもった会で、きっと、利用者様をはじめスタッフもこれから先、どんなに楽しいことがあったとしても、ワタミの食事会のことは、一生忘れることはないでしょう。

お料理も大変おいしく、利用者様は帰り道余韻覚めやらず、普段と違い顔が緩みっぱなしでした。

食事会に関わってくださった社員の皆様に「ありがとう」×14人

担当者様や食事会の機会を下された方々に「ありがとう」×14人

お食事会にご参加されたNPO法人ウィズ 西ひかり第2福祉作業所 十河様よりいただいたお手紙



お食事会にご参加された社会福祉法人 光徳寺善隣館中津学園様からいただいた感謝状



お食事会にご参加された社会福祉法人ひがしよどがわ福祉会、知的障害者通所授産施設あすわ〜様からいただいたお手紙

VOICE

お食事会に参加された施設様の声
社会福祉法人 家庭授産奨励会
知的障害者通所授産施設
西麻布作業所 才田 明伸様



ワタミのお食事会には、今回で7回目の参加となります。

施設利用者の方の多くは、なかなか一人で外食に行く機会がありません。

ワタミのお食事会では、バリエーションが豊富でいろんなものをおいしく食べられ、またゲームなど場も盛り上げてくださるので、利用者の方もいつも楽しみにしてくださっています。

このような場があるということは、とてもありがたいと感じています。

VOICE

お食事会を開催した社員の声
ワタミフードサービス(株)
首都圏営業本部 2部5課
エリアマネージャー 長谷川 陽介様



今回の開催にあたり、利用者様の方に、なんとしてでも喜んでほしい、その一心で、事前準備をはじめとして当日の運営サポートを行っていました。

今回の開催を通じて利用者様に喜んでもらえて、自分も大変嬉しく感じ、やさしい気持ちになりました。

これからも、もっともっとこの活動が広がっていき、たくさんの社員が様々な視点で感じるきっかけになれば良いなと思います。

VOICE

お食事会を開催した社員の声
ワタミフードサービス(株)
語らい処「坐・和民」六本木プラザ店
店長 生駒 知浩様



今回、お食事会を開催させていただき、「本当に、ありがたいな」と感じました。それは、普段だと見逃しがちになる、相手に感謝し、感謝されるという「人の素直な心の反応」を、今回改めて、ストレートに感じる事ができたからです。

サービス業の原点に帰れたような感じがします。

ありがとうをつなぐ…

次世代の子どもたちに、学びの場を



わたみ北海道自然学校

わたみ北海道自然学校 運営方針

- 何故、人は生まれてきたのか、何のために学び、何のために働くのか—を教える学校としたい。
- 人として美しい生き方はどんな生き方か—を教える学校としたい。
- イメージの力の大切さ—を伝えたい。
- 自分の生命は他の生命の犠牲によって成り立っていること—を教えたい。
- 隣の人と自分を較べることによって、自分の場所を確かめるのではなく、自分も絶対的な存在であること—を教えたい。
- 自分が自分を大切に思うように、隣の人をも大切に思っているのだから大切にしよう—と気付かせてあげたい。
- 人類が何百年もかかって築き上げてきた確認済みの理論とそのプロセスを教え、人類の叡智—に感動してもらいたい。
- 「人より優れよ」ではなく「自分だけの道を見つけなさい」と教えたい。
- 理念だけが、規則は生徒が作る学校—を作りたい

SAJ 活動目的

「一人でも多くの子どものために、人間性の向上のための教育機会と教育環境を提供する」
 子どもの夢を育み、健全な成長を促進すると共に、将来、自身に備わった素晴らしい能力に気づき、それを伸ばし、そして、社会に貢献できる子どもたちを育成する事を目標にして、この活動を行います。

SAJ 活動方針

- 「School Aid Japan」教育支援の3つの方針
- 学校教育を充実させる
 - 地域に根ざした支援
 - 点から面への支援の広がりを目指す



SAJ Farm

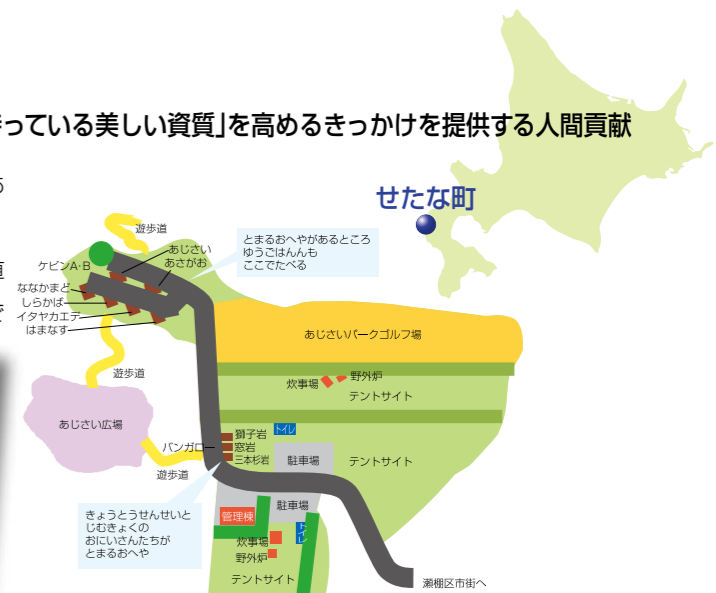
わたみ北海道自然学校の開催 「人間が本来持っている美しい資質」を高めるきっかけを提供する人間貢献

ワタミでは、1999年より毎年夏季に、小学校高学年生を対象としたふれあいイベント「わたみ北海道自然学校」を開催しています。

この学校は、子どもたちの持つ「思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の心、素直さ」など、「人間が本来持っている美しい資質」を高める「きっかけ」を提供できたらとの思いから始まりました。

第12回となる2010年度は、「命・自然・友だち・生活習慣・夢との出会い」をテーマに北海道久遠郡せたな町にて開催され、子どもたち36名、社員（先生・事務局）13名が参加しました。

第12回「わたみ北海道自然学校」のおしりの表紙を描いてくださったのは結城 恵子さん・麻里奈（中3）さん・賢志（小4）くんです。



3泊4日のプログラム

14:15
ワタミファームの
有機野菜を収穫



12:00
磯遊びで
シュノーケリング



9:30
ふれあいセンターで
うどんづくり



[1日目]

[2日目]

[3日目]

[4日目]



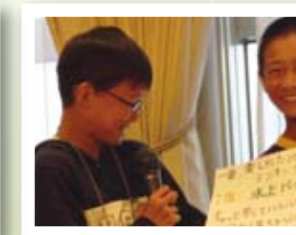
20:30
パジャマミーティングで
夢についてみんなで語る



18:30
バーベキュー



19:00
一人ずつ夢作文発表



17:00
羽田空港に到着後、報告会で
3泊4日で感じたことを発表



ワタミグループによる公益財団法人 School Aid Japan への支援

ワタミグループでは、開発途上国の子どもたちへの教育支援を行う公益財団法人 School Aid Japan (以下 SAJ) の活動を全社員で支援しています。

SAJは、ワタミの社員の発案から設立された団体 (NPO 法人を 2001 年設立) で、スタート時点ではグループからの支援が中心でしたが、今では一般の方をはじめとした多くの方々からの支援により運営されている団体です。

- 外食店舗での募金箱設置 (ポスターの掲示)
2009 年度寄付金額 3,903 千円 (※)
- 従業員が給与天引きで寄付できる体制の構築
従業員からの 2009 年度寄付金額 41,577 千円 (※)
- ワタミグループによる法人会員寄付
2009 年度寄付金額 840 千円 (※)
- 株主総会 (経営説明会) でのブース出展スペースの提供
- 全体会議および研修会での、取り組みの説明機会の提供
- SAJ の活動報告月刊誌「スマイル通信」「Dream 通信」
「SAJ Farm 通信」の配布

(※) 公益財団法人 School Aid Japan (SAJ) は 2009 年 4 月に公益認定を取得し、2009 年 12 月より NPO 法人 スクール・エイド・ジャパンが行っていた全ての事業を引き継いで活動を行っています。上記数値は NPO 法人 スクール・エイド・ジャパンおよび公益財団法人 School Aid Japan への寄付の合計額です。

SAJ の特徴は「全額現地の支援費に」

SAJ では、皆様からいただいた寄附金・会費は「全額、現地の支援費に使う」ことを原則として活動しています。

また、何の支援に使われたのか、その用途を明確にしており、現地の現実が確実に変わったことを確認できる支援にしています。



① 学校建設事業

開発途上国においては、学校教育は子どもの基礎学力の向上を組織的、効率的に行うために特に重要な役割を果たします。SAJ では、カンボジアやネパールなどの海外の国において、学校の無い地域には小学校や中学校などの学校を建設、倒壊の危険にある校舎や、老朽化した校舎の再建築を行っています。

2009 年 3 月末には累計 124 校の学校建設支援を行いました。2010 年度はカンボジア 13 校、ネパール 4 校の建設を予定しています。また、カンボジアにおいては、次第に学校事情が改善されていますが、首都 プノンペン から遠く離れた奥地の州では、まだまだ支援が必要な場所があります。

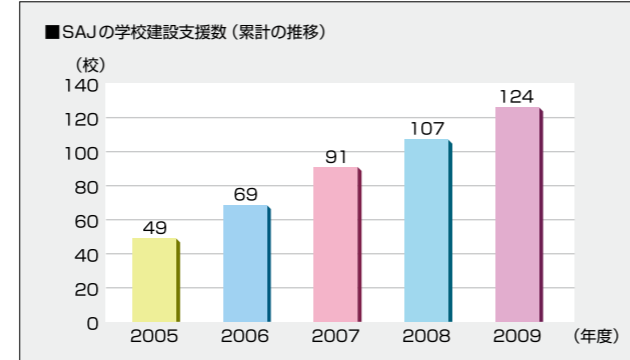
SAJ では、新たな支援地域の調査も始める予定です。



カンボジア旧校舎



カンボジア新校舎



② 就学支援事業

開発途上国においては、貧しさのために未就学の子どもや、入学しても途中退学せざるを得ない子どもたちが多くいます。SAJ では、貧しい家庭の子どもたちへの、就学支援 (制服 1 着・ノート・ボールペンなどの文房具) をすることで、学校で学習が続けられるように支援しています。2009 年度は、675 名の子どもたちに制服、ボールペン、ノートを支援しました。



ふれあいサポートプラン

③ 食料支援事業

開発途上国においては、貧しさのために 1 日 1 回の食事がとれない子どもたちがいます。食費を稼ぐために、学校に入学せずに働いている子どもや学校を休んでいる子どもたちもいます。そのような子どもたちに、お米を支援することで学校での学習が続けられるよう、食料支援をしています。2009 年度の就学支援対象者のうち 553 名に月 10Kg のお米支給の他、WFP から協力を得て、26 校 8,757 人に朝食給食を提供しています。また、お米の保管方法や盗難防止策などについても、指導をしています。



お米支援

④ 孤児院事業

SAJ では、2008 年カンボジア・ポーサット州に、SAJ 初の孤児院「夢追う子どもたちの家」を開園しました。「80 名の子どもの幸せのためだけに運営する」を方針とし、子どもたちが勉強する学習室や、働く場所として畑・果樹園などをつくり、しっかりと生活習慣とあるべき人格を身につけ、自立するまでのサポートを行っています。

2010 年 7 月現在、74 名の子どもたちが入園しています。



孤児院「夢追う子どもたちの家」



孤児院「夢追う子どもたちの家」全景

⑤ 就労支援事業

カンボジアでは、首都 プノンペン における失業率が 50% を超えており、多くの人が働きたくても働けない状況にあります。一方で、カンボジアの基幹産業である農業の後継者は不足しています。また農業技術が乏しいことにより、より貧困が進み、さらなる技術の習得も難しい状況であり、カンボジアにおいては、農業技術の発展と安定が大きな課題となっています。

SAJ では、2009 年にカンボジアの農業技術の向上と雇用の拡大、生活の安定を目指し、14.5ha の農地を購入し、2010 年より本格的に農業を開始しました。SAJ の農場では、化学肥料を使わず、現地ですぐに入れた肥料を使って有機農業を行う「完全循環型農業」を行うと同時に、2012 年には農業建設学校を開設する予定です。



農場 (開墾前)



農場 (開墾後)



農場 (開墾後)